

官報

號外

昭和八年三月一日

○第六十四回 貴族院議事速記録第二十號

帝國議會

昭和八年二月二十八日(火曜日)午前十二時三十分開議

議事日程 第二十號

昭和八年二月二十八日

午前十時開議

- 第一 國務大臣ノ演説ニ關スル件(第七日)
- 第二 意匠法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第三 昭和七年法律第六號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第四 船舶安全法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第五 船舶職員法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第六 地租法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會
- 第七 水産會法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ書記官ヲシテ各般ノ報告ヲ致サセマス

(角倉書記官朗讀)

昨二十七日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

昭和七年歳入歳出總豫算追加案(第二號)

昭和七年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第二號)

同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル滋賀縣今津町、福井縣敦賀町間自動車運輸

官報號外

昭和八年三月一日 貴族院議事速記録第二十號

議長ノ報告 會議 委員辭任ノ件 日程變更ノ件 意匠法中改正法律案 第一讀會

一九三

開始ノ請願外二十六件ノ請願ハ各意見書ヲ附シ即日之ヲ政府ニ送付セリ
同日委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

造幣局工場及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案特別委員會

委員長 男爵四條 隆英君

副委員長 子爵織田 信恒君

六大都市ニ特別市制實施ニ關スル法律案特別委員會

委員長 侯爵大久保利武君

副委員長 藤澤幾之輔君

同日內閣總理大臣ヨリ左ノ通政府委員仰付ケラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

第六十四回帝國議會商工省所管事務政府委員

商工書記官 新倉 利廣君

製鐵所長官 中井 勵作君

製鐵所技監 野田 鶴雄君

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、昨二十七日服部金太郎君

病氣ニ付キ、造幣局工場及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案外五件ノ特別委員ノ辭任ノ申出ガゴザイマシタ、許可スルコトニ御異存ゴザイマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナシト認メマス、就キマシテハ其補闕トシテ藤田四郎君ヲ指名イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 本日モ議事ノ都合上、議事日程ヲ變更イタシ、日程第一ヲ第七ノ終リニ廻シタイト存ジマス、御異存ゴザイマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナシト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 意匠法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

意匠法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和八年二月二十五日

衆議院議長 秋田 清

貴族院議長公爵德川家達殿

意匠法中改正法律案

意匠法中左ノ通改正ス

第十九條ノ二 特許局ハ意匠公報ヲ發行シ本法ニ規定ナル事項ヲ之ニ記載スベシ但シ第六條ノ規定ニ依リ請求ニ依リ秘密ニスベキ登錄意匠ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(政府委員岩切重雄君演壇ニ登ル)

○政府委員(岩切重雄君) 意匠法中改正法律案ノ提案ノ理由ヲ説明申上ゲマス、從來特許登錄實用新案及登錄商標ニ付キマシテハ、ソレハ公報ヲ發行イタシテ、權利ノ内容ヲ公示シテ來タノデアリマスガ、獨り登錄意匠ニ付テハ印刷ノ技術、經費、ソレ等ノ關係ガゴザイマシテ、公報ヲ發行イタサナカッタノデゴザイマス、從テ意匠權ノ内容ヲ公示イタシマスル適當な方法ガアリマセヌコト、意匠權者並ニ一般公衆ノ保護ニ十分デナカッタ憾ミガアルノデゴザイマス、然ルニ意匠登錄ノ出願並ニ登錄件數ハ近年非常ナ増加ノ趨勢ニアルノデゴザイマシテ、民間カラモ意匠公報ノ發行ヲ要望スル聲ガ盛ントナッタ參、タノデゴザイマス、蓋シ特

定ノ人ニ對シマシテ、意匠權ナル獨占的權利ヲ附與イタシマスル以上、其内容ヲ公示イタシマスコトハ、極メテ必要ナコトデアルト考ヘルノデアリマス、近頃印刷界ガ發達イタシマスルニ連レマシテ、容易ニ著色意匠ヲ印刷スルコトガ出來ルヤウニナリマシタ關係上、此際意匠公報ヲ發行イタシマシテ、意匠權者並ニ一般公衆ノ保護ノ全キヲ期スルコトヲ致シマシテ、特許法ニ倣ヒマシテ、意匠公報ノ發行ニ付テ意匠法中ニ規定ヲ設クルコトヲ致シタノデゴザイマス、是ガ即チ本案ヲ提出イタシマシタ所以デゴザイマス、ドウゾ慎重ニ御審議ヲ下サイマシテ、速ニ御協賛ヲ賜ハラムコトヲ切ニ御願ヒ致ス次第デアリマス

(阪本鈺之助君「チヨット政府委員ニ御尋ネ致シテ宜シウゴザイマス」ト述フ)

○議長(公爵德川家達君) 宜シウゴザイマス

○阪本鈺之助君 只今ノ御説明ニ依リマス、此案タケニ付テ見マスルト、斯ノ如キコトヲ特ニ法律ニ追加ナサル程ノ必要ハナイノデハアリマスマイカ、商工大臣ガ必要ト認メテ發行セラレレバソレデ澤山デハナイカ、現ニ最モ政府カラ出ルモノデ重キヲ爲シテ居ル官報ヲ出スト云フコトガ、別ニ法律ニ規定サレテ居ルモノトハ思ヒマセヌ、謂ハバ官報ノ一部ミタヤウナモノト見テ宜イト思ヒマスルガ、之ヲ特ニ法律ヲ追加シテ爲サル、事柄ハ惡イトハ申シマセヌ、必要ナコトト存ジマスルガ、餘リニ繁ニ過ギハシナイカト存ジマスルガ、如何ナモノデゴザイマセウカ、一應御説明ヲ願ヒタイ

(政府委員岩切重雄君演壇ニ登ル)

○政府委員(岩切重雄君) 只今御質問ノ點デアリマスルガ、法律論ト致シマシテハ或ハサウ云フ必要ガナイト云フヤウナ議論モ起ルカトモ存ジマスガ、特許法、實用新案法、商

○國務大臣(高橋是清君) 只今議題トナリ

五 撈船 專船及撈鉗ノ設備

五 撈船 專船及撈鉗ノ設備

二 定期検査ト定期検査トノ中間ニ於テ命令ノ定ムル時期ニ行フ簡易ナル検査(中間検査)

三 臨時ニ特殊ノ用途ニ使用スルトキ行フ検査(特殊船舶検査)

四 前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ行フ検査(臨時検査)

主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ中間検査ヲ受クルコトヲ免除スルコトヲ得

第六條 本法施行地ニ於テ製造スル長サ三十メートル以上ノ船舶ノ製造者ハ第三十條第一項ノ規定ノ適用アル船舶ニ付同條第一項第一號、第二號及第四號ニ掲グル事項、第三條ノ船舶ニ付滿載乾水線ニ關シ船舶ノ製造ニ著手シタル時ヨリ検査(製造検査)ヲ受クベシ但シ主務大臣ニ於テ已ムコトヲ得ズ又ハ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

本法施行地ニ於テ製造スル長サ三十メートル未満ノ船舶ノ製造者ハ其ノ船舶ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ製造船舶ヲ受クルコトヲ得

本法施行地ニ於テ製造スル船舶用機關ノ製造者ハ備附クベキ船舶ノ特定前トリ検査ヲ受クルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依リ検査ニ合格シタル事項ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ検査ヲ省略ス

第七條 第五條又ハ前條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依リ検査ハ主務大臣ノ特定ムル場合ヲ除クノ外船舶ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ

前條第三項ノ規定ニ依リ検査ハ船舶用機關ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ

第八條 主務大臣ノ認定シタル日本ノ船舶協會(以下單ニ船舶協會ト稱ス)ノ検査ヲ受ケ船級ノ登録ヲ爲シタル船舶ニシテ旅客船ニ非ザルモノハ其ノ船級ヲ有スル間第二條第一項第一號乃至第五號、第十號乃至第十二號ニ掲グル事項及滿載乾水線ニ關シ管海官廳ノ検査ヲ受ケ之ニ合格シタルモノト看做ス

第九條 管海官廳ハ定期検査ニ合格シタル船舶ニ對シテハ其ノ航行區域(漁船ニ付テハ從業制限)ノ最大搭載人員、制限汽壓及滿載吃水線ノ位置ヲ定メ船舶検査證書ヲ交付ス

管海官廳ハ特殊船舶検査ニ合格シタル船舶ニ對シテハ特殊船舶検査證書ヲ交付ス
管海官廳ハ第六條ノ規定ニ依リ検査ニ合格シタル船舶又ハ船舶用機關ニ對シテハ合格證明書ヲ交付ス
前條ノ船舶ニ付船舶協會ノ定メタル制限汽壓及滿載吃水線ノ位置ハ管海官廳ニ於テ之ヲ定メタルモノト看做ス

第十條 船舶検査證書ノ有効期間ハ四年トス但シ命令ヲ以テ定ムル小形船舶ニ付テハ四年以内ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間トス

船舶検査證書ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ニ於テハ其ノ有効期間滿了後五月迄ハ仍其ノ效力ヲ有ス
船舶検査證書ハ中間検査又ハ臨時検査ニ合格セザル船舶ニ付テハ之ニ合格スル迄其ノ效力ヲ停止ス
第八條ノ船舶ノ受有スル船舶検査證書ハ其ノ船舶ガ當該船級ノ登録ヲ抹消セラレ又ハ旅客船舶ト爲リタルトキハ其ノ有効期間滿了ス

第十一條 船舶ニ付管海官廳ノ検査ヲ受ケタル者検査ニ對シ不服アルトキハ其ノ事由ヲ具シ主務大臣ニ再検査ヲ申請スルコトヲ得

再検査ヲ申請シタル者ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ關係部分ノ原狀ヲ變更スルコトヲ得ズ
第十二條 管海官廳ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニモ當該官吏ヲシテ船舶ニ臨檢セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ證明スベキ證票ヲ携帯スベシ
管海官廳ハ本法ニ違反シタル事實アリト認ムルトキハ船舶ノ航行停止其ノ他ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條 船舶乗組員二十人未滿ノ船舶ニ在リテハ其ノ二分ノ一以上、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ乗組員十人以上ガ命令ノ定ムル所ニ依リ當該船舶ノ堪航性又ハ居住設備衛生設備其ノ他ノ人命ノ安全ニ關スル設備ニ付重大ナル缺陷アル旨ヲ申立テタル場合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ事實ヲ調査シ必要アリト認ムルトキハ前條第二項ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第十四條 日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ左ニ掲グルモノニハ勅令ヲ以テ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用ス

一 本法施行地ノ各港間又ハ湖川港灣ノミヲ航行スル船舶
二 日本船舶ヲ所有シ得ル者ノ借入レタル船舶ニシテ本法施行地ト其ノ他ノ地トノ間ノ航行ニ從事スルモノ
三 前各號ノ外本法施行地ニ在ル船舶
第十五條 主務大臣ニ於テ前條第三號ニ掲グル船舶ノ所屬地ノ本法ニ該當スル法令ヲ相當ト認メタルトキハ之ニ基キタル船舶ノ堪航性又ハ人命ノ安全ニ關スル證書ハ本法ニ依リ交付シタル證書ト同一ノ效力ヲ有ス
前項ノ規定ハ本法ニ依リ交付シタル證書ノ效力ヲ認メザル國ニ屬スル船舶ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十六條 船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第十七條 滿載吃水線ノ標示ヲ隱蔽、變更又ハ抹消シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 船舶所有者又ハ船長左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ船舶所有者及船長ヲ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 船舶検査證書ヲ受有セズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ特殊船舶検査證書ヲ受有セズシテ船舶ヲ特殊ノ用途ニ使用シタルトキ
二 航行區域ヲ超エ又ハ從業制限ニ違反シテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ
三 制限汽壓ヲ超エテ汽罐ヲ使用シタルトキ
四 最大搭載人員ヲ超エテ旅客其ノ他ノ者ヲ搭載シタルトキ

五 滿載吃水線ヲ超エテ載荷シタルトキ

六 無線電信ノ施設ヲ要スル船舶ヲ其ノ施設ナクシテ航行ノ用ニ供シタルトキ
七 中間検査ヲ受ケベキ場合ニ於テ之ヲ受ケズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ
八 前各號ノ外船舶検査證書ニ記載シタル條件ニ違反シテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ特殊船舶検査證書ニ記載シタル條件ニ違反シテ船舶ヲ特殊ノ用途ニ使用シタルトキ
九 管海官廳ノ許可ヲ受ケズシテ検査ヲ受ケタル事項ニ變更アリタルニ拘ラス適當ノ措置ヲ爲サズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

第十九條 詐偽其ノ他不正ノ行為ヲ以テ第九條ニ掲グル證書ヲ受ケタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 船舶所有者又ハ船長第十二條又ハ第十三條ノ規定ニ依リ處分ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 正當ノ事由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ガ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シテ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 船舶乗組員虛偽ノ申立ヲ爲シ管海官廳ヲシテ第十三條ノ規定ニ依リ調査ヲ爲サシメタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 船級協會ノ職員第八條ニ掲グル船舶ニ付第二條第一項第一號乃至第五號、第十號乃至第十二號ニ掲グル事項又ハ滿載吃水線ノ検査ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行為ヲ爲シ又ハ相當ノ行為ヲ爲サズルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二十四條 船級協會ノ職員ニ前條ニ掲グル検査ニ關シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十六條 本法及本法ニ基ク命令中船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ在リテ船舶管理人ヲ置キタルトキハ之ヲ船舶管理人ニ、船舶貸借ノ場合ニ在リテハ之ヲ船舶借入人ニ適用シ又船舶長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ適用ス

第二十七條 船舶ノ衝突豫防ニ關シ船舶ノ遵守スベキ船燈ノ表示、航法、信號其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 船舶ニハ海軍艦船ヲモ包含ス救助、救命艇手、操練及操舵命令ニ關スル事項並ニ危險及氣象ノ通報其ノ他船舶航行上ノ危險防止ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條 前二條ニ規定スル事項ヲ除クノ外地方長官ハ第二條第一項ノ規定ヲ適用セザル船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ナル規則ヲ設クルコトヲ得

第三十條 本法施行ノ期日ハ第二條第一項第十一號ニ關スル規定、同條同項第十二號ニ關スル規定、第二十七條ノ規定並ニ他ノ一般規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 船舶検査法、船舶滿載吃水線法、船舶無線電信施設法及明治六年

令ノ定ムル所ニ依リ當該船舶ノ堪航性又ハ居住設備衛生設備其ノ他ノ人命ノ安全ニ關スル設備ニ付重大ナル缺陷アル旨ヲ申立テタル場合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ事實ヲ調査シ必要アリト認ムルトキハ前條第二項ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

令ノ定ムル所ニ依リ當該船舶ノ堪航性又ハ居住設備衛生設備其ノ他ノ人命ノ安全ニ關スル設備ニ付重大ナル缺陷アル旨ヲ申立テタル場合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ事實ヲ調査シ必要アリト認ムルトキハ前條第二項ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

令ノ定ムル所ニ依リ當該船舶ノ堪航性又ハ居住設備衛生設備其ノ他ノ人命ノ安全ニ關スル設備ニ付重大ナル缺陷アル旨ヲ申立テタル場合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ事實ヲ調査シ必要アリト認ムルトキハ前條第二項ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

令ノ定ムル所ニ依リ當該船舶ノ堪航性又ハ居住設備衛生設備其ノ他ノ人命ノ安全ニ關スル設備ニ付重大ナル缺陷アル旨ヲ申立テタル場合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ事實ヲ調査シ必要アリト認ムルトキハ前條第二項ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

令ノ定ムル所ニ依リ當該船舶ノ堪航性又ハ居住設備衛生設備其ノ他ノ人命ノ安全ニ關スル設備ニ付重大ナル缺陷アル旨ヲ申立テタル場合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ事實ヲ調査シ必要アリト認ムルトキハ前條第二項ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

令ノ定ムル所ニ依リ當該船舶ノ堪航性又ハ居住設備衛生設備其ノ他ノ人命ノ安全ニ關スル設備ニ付重大ナル缺陷アル旨ヲ申立テタル場合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ事實ヲ調査シ必要アリト認ムルトキハ前條第二項ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

令ノ定ムル所ニ依リ當該船舶ノ堪航性又ハ居住設備衛生設備其ノ他ノ人命ノ安全ニ關スル設備ニ付重大ナル缺陷アル旨ヲ申立テタル場合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ事實ヲ調査シ必要アリト認ムルトキハ前條第二項ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

令ノ定ムル所ニ依リ當該船舶ノ堪航性又ハ居住設備衛生設備其ノ他ノ人命ノ安全ニ關スル設備ニ付重大ナル缺陷アル旨ヲ申立テタル場合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ事實ヲ調査シ必要アリト認ムルトキハ前條第二項ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

令ノ定ムル所ニ依リ當該船舶ノ堪航性又ハ居住設備衛生設備其ノ他ノ人命ノ安全ニ關スル設備ニ付重大ナル缺陷アル旨ヲ申立テタル場合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ事實ヲ調査シ必要アリト認ムルトキハ前條第二項ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

令ノ定ムル所ニ依リ當該船舶ノ堪航性又ハ居住設備衛生設備其ノ他ノ人命ノ安全ニ關スル設備ニ付重大ナル缺陷アル旨ヲ申立テタル場合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ事實ヲ調査シ必要アリト認ムルトキハ前條第二項ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

令ノ定ムル所ニ依リ當該船舶ノ堪航性又ハ居住設備衛生設備其ノ他ノ人命ノ安全ニ關スル設備ニ付重大ナル缺陷アル旨ヲ申立テタル場合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ事實ヲ調査シ必要アリト認ムルトキハ前條第二項ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第二百九十二號布告ハ前條ノ一般規定施行ノ日ヨリ、海上衝突豫防法ハ第二十七條ノ規定ノ施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十二條 第二條第一項ノ規定ハ左ニ掲グル船舶ニハ當分ノ内之ヲ適用セズ

一 總噸數二十噸未満ノ帆船
二 總噸數二十噸未満ノ漁船
三 平水區域ノミヲ航行スル帆船
第三十三條 船舶滿載吃水線法ニ依リ滿載吃水線ノ標示ヲ要セザリシ船舶ニシテ本法ニ依リ其ノ標示ヲ要スルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ滿載吃水線ニ關スル検査ヲ受クル迄之ヲ標示セザルコトヲ得

第三十四條 本法施行前ニ生ジタル事項ニ付テハ仍舊法ニ依ル但シ船級協會ノ認定其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十五條 船舶検査法ニ依リ船舶検査證書若ハ假證書ヲ受有スル船舶又ハ之ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供スル船舶ニハ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ル迄船舶検査、滿載吃水線及無線電信施設ニ關シ仍舊法ニ依ル

一 航行期間滿了ノ爲船舶検査法ニ依リ検査ヲ受クベキトキ
二 船舶検査法ニ依リ船舶検査證書又ハ假證書ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供シ得ザルニ至リタルトキ
三 船舶滿載吃水線法ニ依リ滿載吃水線ノ指定ヲ受クベキトキ

第三十六條 前條ノ船舶同條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ受クベシ

前項ノ検査ニ合格シタル船舶ニハ船舶検査證書ヲ交付ス但シ其ノ有效期間ハ四年以内ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間トス

前項ノ有效期間ノ滿了ハ第五條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ第十條ニ規定スル有效期間ノ滿了ト看做ス
第三十七條 他ノ法令中航行路定限、遠洋航行、近海航行、沿海航行又ハ平水航行、近海區域、沿海區域又ハ平水區域トス

船舶職員法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和八年二月二十五日
衆議院議長 秋田 清

貴族院議長公卿德川家達殿

船舶職員法中改正法律案
船舶職員法中左ノ通改正ス
第一條第一項但書ヲ左ノ如ク改ム
但シ船舶安全法第二條第一項ノ規定ヲ適用セザル船舶ハ此ノ限ニ在ラズ
第八條第一項中「船舶賃借人」ヲ「船舶賃借人」、「賃借人」ヲ「船舶借入人」ニ改ム

第九條第二項中「賃借人」ヲ「船舶借入人」ニ改ム
第九條ノ二中「船舶検査法第十七條ニ掲クル外國船舶」ヲ「日本船舶ニ非サル船舶ニシテ船舶安全法第十四條各號ニ掲クルモノ」ニ改ム

第九條ノ三「中」又ハ臺灣總督ヲ削ル
第九條ノ四 地方長官ハ船舶安全法第二條第一項ノ規定ヲ適用セザル船舶ニ於テ船舶職員ニ該當スル職務ヲ執ル者ノ資格ニ關シ逕信大コトヲ認可ヲ受ケ必要ナル規則ヲ設クルコトヲ得

第一號表(其ノ一)及其ノ二「中」航行路「航行區域」ニ、「平水航路」ヲ「平水區域」ニ、「沿海航路」ヲ「沿海區域」ニ、「近海航路」第一區ヲ「近海區域」ニ、「遠洋航路」ハ近海航路第二區ヲ「遠洋區域」ニ改ム
第一號表(其ノ二)遠洋航路又ハ近海航路第二區帆船二百噸未満ノ項免狀種類ノ欄中「丙種船長免狀(近海航路第二區ニ限ル)」及「丙種運轉士免狀(近海航路第二區ニ限ル)」ヲ削ル

附則
本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○國務大臣(南弘君) 只今議題ト相成テ居リマシス所ノ二法律案、提出ノ理由ヲ御說明申上ゲマス、近時海運、造船事業ノ長足ノ進歩ニ伴ヒマシテ、船舶ノ安全防

止ニ關スル各般ノ施設ハ、其進歩極メテ顯著ナルモノガアリマシテ、各國齊シク之ガ

取締法規ノ整備ニ努メテ居ル狀況デアリマスガ、曩ニ昭和四年及昭和五年ニ於キマシテ、海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ニ國際條約並ニ國際船舶滿載吃水線條約ガ成立シタルニシテ、是等兩條約ニ既ニ多數ノ主要海運國ニ於キマシテ其批准ヲシマシテ、本年一月一日ヨリ之ヲ實施イタシテ居ル狀況デアリマス、我國モ亦是等條約ノ調印國ト致シマシテ、且又本邦ノ世界海運界ニ於ケル地位カラ見マシテモ、速ニ之ヲ實施イタスコトガ適當ト考ヘルノデアリマス、又一面ニ於キマシテ、我國ニ於ケル船舶ノ安全ニ關スル現行取締法ガ多岐ニ互ニテ居リマシテ、之ガ運用上極メテ不便ノ點ガ少クナイノミナラズ、是等取締法ノ根幹ヲ成シテ居ル所ノ船舶検査法ハ、制定以來既ニ長年月ヲ經過イタシテ居リマシテ、規定ノ内容ガ現下ノ實際ノ要望ニ副ビ難イ憾ミガ多クアルノデアリマス、依テ此際右兩條約ノ實施ニ差支ナイヤウニ其内容ヲ取入レマシテ、是等關係法規、現行船舶検査法、船舶滿載吃水線法、船舶無線電信施設法、海上衝突豫防法等ノ關係法規ヲ整理統一イタシマシテ、且ツ之ニ適當ノ改正ヲ加ヘマシテ、茲ニ船舶安全法案ヲ提出イタシタ次第デアリマス、次ニ船舶職員法中改正法律案提出ノ主要ナル理由ハ、此法律中ニ前ニ御說明申上ゲマシタル所ノ船舶安全法施行ノ曉ニ於キマシテ、當然廢止セラルベキ船舶検査法ノ規定ヲ引用シテ居リマス、之ヲ改メテ船舶安全法ノ規定ニ依リマスル必要ヲ生ジタルデアリマス、尙ホ其序ヲ以テ若干輕微ノ修正ヲ加ヘルコトニ致シタ次第デアリマス、右兩法案提出ノ理由ハ以上申上ゲタルデアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラムコトヲ希望イタシマス

○子爵池田政時君 唯今議題ニ上ボリマシタル船舶安全法案外一件ハ、極メテ重要ナル法案デアリマスガ故ニ、委員ノ數ヲ十五名トシ、其指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出イタシマス

○子爵岡田長吉君 贊成
○議長(公卿德川家達君) 池田子爵ノ特別委員ノ數ヲ十五名トシ、其選舉ヲ議長ニ一任スルコト云フ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

取締法規ノ整備ニ努メテ居ル狀況デアリマスガ、曩ニ昭和四年及昭和五年ニ於キマシテ、海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ニ國際條約並ニ國際船舶滿載吃水線條約ガ成立シタルニシテ、是等兩條約ニ既ニ多數ノ主要海運國ニ於キマシテ其批准ヲシマシテ、本年一月一日ヨリ之ヲ實施イタシテ居ル狀況デアリマス、我國モ亦是等條約ノ調印國ト致シマシテ、且又本邦ノ世界海運界ニ於ケル地位カラ見マシテモ、速ニ之ヲ實施イタスコトガ適當ト考ヘルノデアリマス、又一面ニ於キマシテ、我國ニ於ケル船舶ノ安全ニ關スル現行取締法ガ多岐ニ互ニテ居リマシテ、之ガ運用上極メテ不便ノ點ガ少クナイノミナラズ、是等取締法ノ根幹ヲ成シテ居ル所ノ船舶検査法ハ、制定以來既ニ長年月ヲ經過イタシテ居リマシテ、規定ノ内容ガ現下ノ實際ノ要望ニ副ビ難イ憾ミガ多クアルノデアリマス、依テ此際右兩條約ノ實施ニ差支ナイヤウニ其内容ヲ取入レマシテ、是等關係法規、現行船舶検査法、船舶滿載吃水線法、船舶無線電信施設法、海上衝突豫防法等ノ關係法規ヲ整理統一イタシマシテ、且ツ之ニ適當ノ改正ヲ加ヘマシテ、茲ニ船舶安全法案ヲ提出イタシタ次第デアリマス、次ニ船舶職員法中改正法律案提出ノ主要ナル理由ハ、此法律中ニ前ニ御說明申上ゲマシタル所ノ船舶安全法施行ノ曉ニ於キマシテ、當然廢止セラルベキ船舶検査法ノ規定ヲ引用シテ居リマス、之ヲ改メテ船舶安全法ノ規定ニ依リマスル必要ヲ生ジタルデアリマス、尙ホ其序ヲ以テ若干輕微ノ修正ヲ加ヘルコトニ致シタ次第デアリマス、右兩法案提出ノ理由ハ以上申上ゲタルデアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラムコトヲ希望イタシマス

○子爵池田政時君 唯今議題ニ上ボリマシタル船舶安全法案外一件ハ、極メテ重要ナル法案デアリマスガ故ニ、委員ノ數ヲ十五名トシ、其指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出イタシマス

○子爵岡田長吉君 贊成
○議長(公卿德川家達君) 池田子爵ノ特別委員ノ數ヲ十五名トシ、其選舉ヲ議長ニ一任スルコト云フ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

○議長(公卿德川家達君) 池田子爵ノ特別委員ノ數ヲ十五名トシ、其選舉ヲ議長ニ一任スルコト云フ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

○議長(公卿德川家達君) 池田子爵ノ特別委員ノ數ヲ十五名トシ、其選舉ヲ議長ニ一任スルコト云フ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

○議長(公卿德川家達君) 御異議ナシト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ、書記官ヲシテ朗讀イタサセマス

(小林書記官朗讀)
船舶安全法案特別委員

公卿一條 實孝君 伯爵川村鐵太郎君
子爵今城 定政君 子爵松平 保男君
子爵西尾 忠方君 男爵斯波忠三郎君
男爵東久世秀雄君 岡 喜七郎君
男爵深尾隆太郎君 坂野鉄次郎君
堀 啓次郎君 各務 鎌吉君
林 平四郎君 松岡 潤吉君
瀨川彌右衛門君

○議長(公卿德川家達君) 地租法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會、是ニハ質疑通告ガアリマス、三浦新七君ノ御登壇ヲ望ミマス

地租法中改正法律案
右本院提出案及送付候也
昭和八年二月二十五日
衆議院議長 秋田 清

貴族院議長公卿德川家達殿
地租法中左ノ通改正ス
第十條ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ青森縣、岩手縣、宮城縣、秋田縣、山形縣、福島縣、北海道、沖繩縣及鹿児島縣大島郡ハ百分ノ二・六トス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
(三浦新七君演壇ニ登ル)

○三浦新七君 昨ハ本案ニ關係アリマスル東北ノ選出議員ダルト云フ關係カラ、先輩ヲ差錯キマシテ甚ダ僭越デハゴザイマスガ、此案ニ對シテ政府ノ御意向ヲ伺ヒタイト思ヒマス、譯デアリマス、此案ハ今ノ地租ノ三分八厘ニナツテ居リマスルモノヲ、北海道、東北六縣、沖繩縣、鹿児島縣ノ大島郡ト云フモノニ限リマシテ、二分六厘ニ減ラサウト云フ案デアリマス、テヨッ

ト見マスル此案ハ甚ダ時宜ニ適シナイヤウナ感ガアリマス、ノデアリマス、歳入歳出ガ平衡ヲ失フテ、エライ赤字公債ヲ出サナケレバナラヌト云フヤウナ時ニ當リマシテ、

スルコトニナルヤウニ見エルのデアリ
ス、併シ自分ノ考ヘル所ニ依リマス、ド
ウモハ矢張り地方的ニ解釋シナケリヤナ
ラヌ問題、地方的ニ考ヘテヤナケレバナ
ラヌ問題デアルト云フヤウニ思ハレルノ
デアリマス、是ハ政府委員モ認メテ居ル
如クニ、明治ノ初年以來地租ノ性質ガ變
テ居ル、初メハ我國ノ産業ト云フモノハ
農業タケデアデ、收入租稅ト申シマシテ
モ、農業ガ八九割ヲ占メテ居ル、農業カ
ラ出テ來ル地租ハ八九割ヲ占メテ居ル
ト云フ狀態デアデ、當時ノ地租ト云フモノ
ハ同時ニ所得稅デアリ收益稅デアラ
フ、ソレガ今日ノ狀態ニ變テ來タルノ
デアル、地租ハ此財產收入ニ重ネテ課
スル特別ノ稅ニナリテ居ルノデアルト
云フコトヲ申シテ居ラレルノデアリ
マスガ、私共ノ考ヘニ依リマス、其昔ノ
狀態、即チ地租ト云フモノガ所得稅
デアリ收益稅デモアルト云フ狀態ガ、
今日正ニ東北地方ナリ、北海道ナリ
ニ行ハレテ居ルノデアリマシテ、北
海道ト申シマシテハ農業ヲ除イテハ
殆ドノ著シイモノハナイ、農業一本立
、土地ニ依食シテ居ルト申シマスガ、
ソレ以外ニ收入泉源ガ殆ドナイ狀態
デアリマス、昔ノ地租ヲ拵ヘタ時ノ
狀態ガ、今日ノ東北地方ニ當テ
常嶽マルバ狀態デアルト思フ、テ居
ルノデアリマス、ソレガ詰リ此案ヲ
發案シタ連中ガ、東北ノ産業ニ付テ
土地ガ特殊ノ性質ヲ持テ居ル、特殊
ノ地位ヲ占メテ居ルノ云フコトヲ主張
スル所以デアリマス、他ノ工業的ニ進
ンデ居ル地方ニ當テ常嶽マルバ其儘平
等ニ東北地方ニモ行フコトカラ、東北
地方ガ特別ニ負擔ヲ重ク受ケテ居ル
ト云フ狀態ニアルト思フノデアリマス
、今日ノ狀態ニ於テハ何處マデモ此
地租ト云フモノハ東北ニ於テハ少し
クトモ東北、北海道ニ於テハ農業ニ
課セラレル稅デアデ、決シテ特別ニ
地主ダケニ課セラレル稅デハナイ
ト私ハ思フ、居ル次第デアリマス、
問題ハ地租ガ地主ニ課セラレル稅金
デアカドウカト云フ問題デハナイ
ノデアリマシテ、農業ガ唯一ノ産業
デアル東北ニ於テ、課稅ガ重イカ
輕イカ、他ノ地方ニ較ベテ、他ノ縣
ニ比ベテ、重イカ輕イカト云フコト

ガ中心問題ニナルノデアリマス、此案ノ問題ハ其點ニアルノデアリマス、ソレハ結局此一段歩當リノ生産高、ソレト負擔額ヲ比較シテ初メテ之ヲ見ルコトガ出來ルト思フノデアリマス、其負擔ヲ何ボデモ輕クシテヤラウト云フコトノ爲ニハ、詰リ東北地方ノ雪害ニ苦シミ、生産條件ノ惡イト云フコトカラシテ、經濟的ニ苦シムル東北、北海道ノ狀態ニ同情シテ、幾分デモ其負擔ヲ輕クシテヤラウト云フコトノ爲ニハ、地租ガ中心ノ課稅收入ナンドアリマスカラシテ、ソレヨリ以外ニハ殆ド目星イ利益ガナイノデアリマスカラ、縱令今日ノ地租ノ性質ガドウアラウトモ、地租ノ性質トカ何トカ云フコトヲ考ヘルニ及バズ、ソレ以外ニハ目星イ税金ガナイト云フ所カラシテ、地租ヲ減ラスト云フコトヨリ以外ニハ方法ハナイモノダト云フ工合ニ私ハ考ヘテ居ル譯デアリマス、サウ云フヤウナ工合ニ私共ハ考ヘテ居リマス譯デアリマスガ、此事ニ對シテ政府當局ハ如何ニ御考ニナッテ居ラレマスガ、其態度ヲ御伺ヒ致シタイノデアリマスガ、政府ノ態度ト申シマシテモ、ハッキリ反對デアルトカ賛成デアルトカ云フコトヲ御伺ヒシタノデハ、問題ガ極メテシマヒマシテ動キガ取レナクナル譯デアリマスノデ、一般民意ノアル所ヲ御察シ下サレ、又衆議院ガ此滿場一致政黨政派ヲ超越シテ此問題ヲ可決シタト云フ狀況ニ顧ミラレマシテ、何トカ此問題ヲ慎重ニ考ヘテ下サルコトヲ御思ガオ有リナルカドウカト云フコトヲ御伺ヒ致シタイ譯デアリマス、又本院ノ各位ニ對シテハ、此問題ハ地方的ノ問題デアリマス、對シテハ、慎重ニ御審議下サイマシテ審議未了ト云フヤウナコトニナラナイヤウニ一ツ御願ヒ致シタイ次第デゴザイマス

（國務大臣高橋是清君演壇ニ登ル）

○國務大臣高橋是清君 只今三浦サンカラ此本案ニ付テノ政府ノ意圖ヲ聽キタイト云フノデ、簡略ニ御答ヲ致シマス、本案ハ東北六縣、北海道、沖繩縣及鹿児島縣ノ大島郡ノ地租ニ付テハ、其稅率ヲ現在全國百分ノ三・八トナッテ居ル、三分八厘、ソレヲ二分六厘ニ改メヤウト云フ御趣意デアルノデ

アリマス、然ルニ御承知ノ如ク東北、北海道ヲ含ム雪國ノ一體ニ付キマシテハ、昨年來內務省ニ雪害對策調査會ガ設ケラレマシテ、産業經濟ノ方面ハ勿論、土木、交通、通信、教育、衛生、社會事業等、各般ノ事項ニ互ニテ折角其對策ニ付テ審議考究セラレテ居ルノデアリマス、政府ガ東北六縣及北海道ノ經濟事情ニ多大ノ關心ト同情トラ有スルコトハ申ス迄モナイノデゴザイマス、又沖繩縣及鹿児島縣大島郡ノ狀態ニ付テモ、多年之ガ經濟振興ノ爲ニ配慮イタシテ居ルノデアリマス、或ハ同地ノ特產品タル黒砂糖ノ消費稅ヲ半減シタリ、又ハ相當多額ナル交付金ヲ交付スル等、其他種々ノ施設ガ講ゼラレテ居リマスノミナラス、最近ニ於キマシテハ沖繩縣振興計畫ナルモノモ考ヘラレテ居ルノデアリマス、斯ノ如ク東北六縣北海道、沖繩縣及鹿児島縣大島郡ノ現狀ニ對シマシテハ、政府ハ大ナル同情ヲ以テ之ニ臨ンデ居ルノデアリマシテ、決シテ之ヲ等閑ニ付シテ居ル譯デハナイノデアリマス、併ナガラ地租ハ全國同時ニ一樣ニ調査シタル賃賃價格ヲ以テ、今日ハ其課稅標準ト致シテ居ルノデアリマシテ、適ニ是等ノ地方ニ對シテノ差異ヲ稅率ヲ適用イタルコト云フコトハ、他府縣ト間ニ於ケル地租負擔ノ關係ヲモ慎重ニ考慮イタサネバラス、又國家ノ稅制ト致シマシテモ、之ヲ承服イタシ兼ネルノデアリマス、故ニ本法案ニ對シマシテハ遺憾ナガラ政府ハ贊成ノ意ヲ表スルコトガ出來ナイノデアリマス、御答ヲ致シマス

○議長（公爵德川家達君） 別ニ他ニ質疑モナイト認メマスカラ、本案ノ特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀ヲ致サセマス

（小林書記官朗讀）

地租法中改正法律案特別委員
侯爵中御門經恭君 伯爵兒玉 秀雄君
子爵裏松 友光君 大島 健一君
男爵近藤 滋彌君 加藤政之助君
大橋新太郎君 宇野 勇作君
佐藤龜八郎君

○議長（公爵德川家達君） 水產會法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

水產會法中改正法律案
右本院提出案及送付候也
昭和八年二月二十五日

衆議院議長 秋田 清

貴族院議長公爵德川家達殿

水產會法中改正法律案、第七號及第十六條第二項中ノ第四號、第七號及第八號「ラ」第四號及第七號ニ改ム

第二十一條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
前項但書ノ規定ニ依ル選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス
第二十六條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ
同條第三項中ノ「前項」ヲ「前二項」ニ徵收金ニ次クモノトス」ヲ「徵收金ニ次キ其ノ時効ニ付テハ市町村稅ノ例ニ依ル」ニ改ム

市町村カ前項ノ請求ヲ受ケタル日より三十日以内ニ其ノ處分ニ著手セス又ハ九十日以内ニ之ヲ完了セサルトキハ會長ハ地方長官ノ認可ヲ得テ之ヲ處分スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村制第百一十一條第一項及第四項ノ規定ヲ準用ス

○議長（公爵德川家達君） 別ニ發言モナイト存ジマスカラ、特別委員ノ氏名ヲ、書記官ヲシテ朗讀ヲ致サセマス

（瀨古書記官朗讀）

水產會法中改正法律案特別委員
公爵鷹司 信輔君 伯爵橋本 實斐君
子爵野村 益三君 子爵土御門晴善君
有吉 忠一君 男爵足立 豐君
小坂 順造君 三橋 彌君
野村茂久馬君

○議長（公爵德川家達君） 日程第一ニ戻リマシテ、昨日ノ田中館君ノ質疑ニ對スル答辯ガゴザイマス、南憲信大臣

（國務大臣南弘君演壇ニ登ル）

○國務大臣（南弘君） 我國ノ航空事業ノ發達ニ對シマシテ、從來田中館博士ガ努力セラレツツアリシコトニ對シマシテハ、衷心ヨリ感謝イタシテ居ル次第デアリマス、昨日ノ御質問ニ相成リマシタ其中デ、逕信省ノ關係イタシテ居リマス點ニ付キマシテ

御答ヘ致シマスルガ、第一ハ民間飛行場ノ増設ニ付テノ御尋デアリマシタ、民間ノ飛行場ノ設置ノ航空事業ノ發達ノ爲ニ必要ナリト云フコトハ、博士ノ申述セラレタ通りデアリマシテ、政府ニ於キマシテモ之ガ増設ニ銳意努力イタシテ居ルノデアリマス、レドモ、何分ニモ是ニハ相當巨額ノ經費ヲ要スルノデ、思フヤウニ參リマセヌノハ、甚ダ遺憾ニ存ジテ居ル次第デアリマス、政府ハ大體ニ於キマシテ、主要航空路ノ幹線ニ添ヒマス所ノ重要都市ニハ、政府ニ於テ飛行場ヲ設置イタシマス方針ヲ以テマシテ、既ニ先キノ臨時議會ニ於キマシテ、之ガ方針ニ基キマシテ、仙臺、青森、札幌ニ飛行場ノ設置ニ關スル經費ノ御協賛ヲ得タヤウナ次第デアリマス、又航空路ノ支線ニ當ル所ノ都市ニ對シマシテハ、出來ルカ自自治團體、公共團體、其他民間ノ發意ニ基キマシテ、政府ニ於テ之ヲ出來ルカ援助イタシタイ積リテ居リマス、既ニ各所ニ於テ、之ガ企テモアルヤウナ次第デアリマス、次ニハ此學生ニ航空思想ヲ普及スル必要ニ付テノ御尋デアッタト記憶イタシマス、此事ニ關シマシテハ政府モ全ク同感デアリマシテ、既ニ東西兩大學並ニ專門學校ノ學生カヲ成リマス所ノ、財團法人ノ學生航空聯盟ニ對シマシテ、昭和五年並ニ六年ニ於ケルシテ各、六千圓ノ補助ヲ致シマシテ、七年度ニ於テモ五千圓ヲ補助イタシテ居リマス、固ヨリ斯ノ如キ金額ヲ以テ其目的ノ十分ニ達シ得ラレルモノトハ思フテ居リマセヌ、將來ニモ財政ノ許ス範圍ニ於キマシテ、此點ニ於テモ大イニ力ヲ用ヒタイ積リテ居リマス、次ニハ操縦士ノ養成ニ付テノ御尋デアリマシタ、飛行機ノ操縦ノ基礎ヲ成スモノデアリマシタ、政府ニ於キマシテモ從來此事ニ留意イタシマシテ、大正九年以來經費ヲ支出シテ之ガ養成ニ努メテ居ル次第デアリマシテ、既ニ百數十名ノ操縦士ヲ出シマシテ居ルヤウナ次第デアリマス、又民間ニ於キマシテモ、之ガ養成ニ從事イタシテ居リマシテ、年々數十名ノ者ヲ出シテ居リマシテ、技術、學業、體格等ニ付テ検査ヲ致シ

部大臣ガ御出デニナリマセヌガ、政府委員ガ御見エニナリマスカラ唯一言誤解ノ無イ爲ニ申上ゲテ置キマス、文部大臣ハ學生ノ飛行ヲ補助スル計畫ハ文部省ニハナイ、斯ウ云フコトデゴザイマシタガ、補助ト云フコトト獎勵ト云フコトハ違フタ事柄デアリマス、補助ト申シマスト多分物質的ニ補助ヲ與ヘル、通信大臣カラ仰セニナシタ如キ補助ノ意味カト思ヒマスガ、ソレハナクトモ精神的ニ獎勵ヲスルト云フコトハ、必シモ金錢ガナクとも出來ルコトデアリマス、ソレヲ殊ニ私ハ此點ニ力ヲ入レテ伺ヒマシタノハ、斯ウ云フコトハ積極的ニ、精神ヲ出テ働カナケレバ本當ノ進歩ハ望マレマセヌ、ソレデ財界ノ者、知識階級ノ者、或ハ一般公衆ノ中ノ技術ノ有ル者、此三ツノモノガ積極的ニ力ヲ入レルベキモノト思ヒマス、財界ノ者ハ大抵高等教育ニ子弟ヲ差向ケマシテ、高等教育ノ學校ニ入テ居リマス、是等ノ者ハ趣味ヲ持チマスト、飛行機ナドハ自分デ二臺モ三臺モ造リ、或ハ裕福ナル者ハ私立ノ飛行場ヲ設ケル、サウ云フモノハ随分アリマス、我國デ立派ナ實業界ノ諸君、或ハ貴族諸君ノ中ニ、ソレダケノ力ノアル方ガ澤山アルト思ヒマス、是等ヲ他ノ享樂ニ用ヒルヨリハ、斯ウ云フコトガ出來ル等デアリマス、又少シ外レマスガ、失業救済ト云フヤウナコトデ、道路ヲ造ルコトガ此頃流行ルヤウデアリマス、此極地ヲ測ノ上……

○議長(公爵徳川家達君) 田中館君ハ勿論再質疑ノ御積リデアラウト考ヘマスガ、兎角御意見ニ流レ易イヤウニ思ヒマス、御注意イタシテ置キマス

○田中館愛燭君 承知イタシマシタ、昨日申殘シタコトガアリマスガ故ニ、意見ガマシイコトニナリマス、斯ウ云フコトハ文部大臣ハ御出デニナリマセヌガ再質疑ノ形デアリマス、御答辯ノ中ニ極地ヲ測ニ付キマシテ、……只今航空ニ關係シテ高層氣象觀測ト云フコトガ重要ニナリマシテ、其結果ガ現ハレツツアルノデアリマス、之ニ付キマシテ大臣ノ御答辯ノ中ニ「是ハ五十年目ニ一回ノ仕事デアル」、是ハ能ク新聞等デハサウ云フヤウニ間違ヒマスカラ御無理モナ

イト存ジマス、此計畫ニハ私モ出席イタシ
マシタガ、此極地觀測ト云フノハ名前デア
リマシテ、五十年前「ワイブレヒト」ガ計畫
イタシマシタ、大事業ヲ行ヒマシテ遠征隊
ヲ各國ガ發シタ、非常ノ犧牲ヲ拂ヒテ觀測
ガアリマス、其五十年前ノ記念ニ今年行テ
居ルノデアリマス、昨年ノ八月カラ今年ノ
八月マデ行フコトニナツタデアリマス、ソ
レデ此事業ヲ記念事業トシテ世界的ニ一緒
ニヤラウ、斯ウ云フノデアリマシテ、此結
果ニ鑑ミマシテ更ニ之ヲ繼續スルヤウナコ
トガアツタナラバ、之ヲ實行スル意思ガアル
カト云フコトヲ伺ヒマシタノデ、御答辯ニ
依リマス、研究ノ結果豫算ヲ要スルコト
ガアレバ、更ニ之ヲ豫算ニ組立テ協賛ヲ求
メルト云フ御趣意デアリマシタカラ、多分
結果ニ顧ミテ將來相當ノ豫算ヲ出シマシ
ルコトヲ察シマス、通信大臣ノ御答辯ニ對
シマシテハ別ニ同フコトガゴザイマセヌ、
唯原因ノ調査ト云フコトハ御考ノ通り大切
ナコトデゴザイマスカラ、ドウカハ尙ホ
嚴密ニ御調査ノアルコトヲ希望イタシマ
ス、私ノ質問ヲ終リマス

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ阪本鈺之
助君ニ質疑ノ發言ヲ許シマス

○阪本鈺之助君 此處デ宜シウゴザイマセ
ウカ、餘リ長イコトデハゴザイマセヌ
○議長(公爵德川家達君) 成ルベク御登壇
ヲ煩ハシタク存ジマス

(阪本鈺之助君演壇ニ登ル)

○阪本鈺之助君 昨日來殆ど文部大臣ト御
約束ノ形ニナツテ居リマスルガ、今朝マデ御
出席ガゴザイマセヌ、朝早く樞密院ヘ行ク
カラ、十一時半迄ニハ出ルト、斯ウ云フ御
話デゴザイマシタカラ丁度好イ合ダト
思フデ居リマシタガマダ御顔ガ見エマセヌ、
些細ナコトデゴザイマスカラ述ベマシテ、
若シ政府委員ガ御答ヘ下サルコトガ出來マ
スレバ、政府委員ヨリ御答ヲ願ヒタイト存
ジマス、私ハ二ツノ質問ヲ持テ居リマス、
アリマスガ、一ツノ方ハ承ハリマスルト豫
算委員ノ第三分科會ニ於テ問題ニナツテ居
ルモノデアリマスカラ、是ハ其方ニ譲リマ
シテ傍聴ヲ致サウカト存ジテ居リマス、第
二ノ方デケテ御尋ラスルコトニ致シマスル
ガ、何時ノ議會ニモ學校ノ學生生徒ガ傍聴

ニ來ラレド云フコトハ珍ラシイコトデハ
ナイ、毎回多少ノ傍聴ガ出デニナルノデ
アリマスガ、當年ハ非常ニ目立チマシテ、
開院以來毎日男女ノ學生諸君ガ、兩側ノ傍
聴席ニ充填サレテ、殆ド貴族院ノ傍聴ハ學
生生徒諸君ノ占領ト云フ形ニナツテ居ルノ
デ、是モ即チ國民ノオノデアツテ傍聴ニ
イラシタルコト云フコトハ決シテ妨ゲル譯
デモナシ、貴族院事務局モ亦之ヲ拒メル筈
ノモノデハナイト存ズマスルカラ、從テ彼
此レ不モ何モナイノデ、誠ニ聽イデ戴ク
コトハ私共光榮ト存ズルノデアリマス、
ガ、唯疑ヲ挾ムノデアリマスルガ、是ハ學
生若クハ生徒ノ御希望ニ基イテ居ルノデア
リマセウカ、或ハ學校ガ少シ強制ノ氣味デ
明日ハオ前達ハ貴族院ヘ行クノダト云フヤ
ウナコトデ、朝何時ニ來イト云フノデ、今
朝ノ如キ雪ノ降ル時デモ相當早ク、狩集メ
テ、先ツ暫ク院外ヘ立ッテ居ナレバナラ
ス、ソレカラ院內ヘハ早く押込マレテ、私
共デハ迎ヒテ切レハコトデゴザイマセヌ
ガ、御若イ方ミデ差支ナイイカモ知レマセ
ケレドモ、長イ間ギンリ詰込マレテ身動
キモナラヌヤウナコトデゴザイマセヌケレ
ドモ、是ハ生徒諸君ガ豫テ御覺悟デ、御希
望デ出テ居ルコトデアラウカト云フコトヲ
疑フノデアリマスガ、併シ是ガ教育上非常
ニ必要ナコトデアラウコト云フ當局ノ見地ヨリ
シテ、御勸メニナツテ居ルコトデアラカド
ウカ、學校ガサウ云フコトデアラナラバ、
其筋カラ豫メ御示シマツテ學校ノ順序デ
モ御立テニナツテ、今日ハ何處ノ學校、今
日ハ何處ノ學校ト云フヤウナコトデ、チヤ
ンハ順序ガ極デ居テ、連モ東京府下ノ中
等教育以上ノ學校全部ハ廻リ切レマスマイ
ケレドモ、或ハ籤引キニデモスルトカ、來年
ニ廻ハストカト云フコトデ順序ヲ立テテオ
出デニナルコト云フコトデ見ナツテ居ルノ
アルカ、此邊ヲ少シ伺テ見ナツテ居ルノ
思フコトデアリマス、其順序ヲドウナサル
コトヲ御勸メニナツテ居ルカ、當局
ガ獎勵ノ意味ヲ以テ默許ナサツテ居ルカ、或
ハ御勸メニナツテ居ルカト云フ點ヲ承テ見
タイノデアリマス、或ハ婦人等學ノ豫行演
習ト云フヤウナ意味デ、ソレモ宜カラウト
云フヤウナコトデ、今ノ文部大臣ハ少壯氣
銳ノ御方デアリマスカラ、之ヲ御勸メニナツ

テ居ル氣味デモアリハセヌカ、此可否ハ
私ハ申シマセヌ、今申シマセヌガ、サウ云
フコトデモアリマスガ、兎ニ角文部省直
轄ノ學校ハ少イデアリマセウカ、其他ノ府
立ナリノ學校ニ付テ、ドウモ態度ヲ文部
省ハ執テ居ラシタルカ、或ハ些細ナコト
デアラカラ政府委員ハ來テ見テ御覽ニナ
テ、今年ハ大變學校生徒ガ多イナト云フ位
ニ御感ジニナツテ居テ、良イカ思イカト云
フコトデ、今私ガ申上ゲルヤウナ疑ヲ毫末
モ持ツテ居ラシヤナリイカモ知レマセヌケ
レドモ、極ク私ハ神經質ノ流儀デアリマス
カラ、斯ウ云フコトガ矢張り非常ニ氣ニナ
ル、現ニ自分ノ子弟ノ身ニナツテ見テ、果シ
テ喜ンデ居ルカ、性質ニモ依リマセウ、非
常ニサウ云フコトヲ喜ブ娘サン……私ハ重
コニ御婦人ノ方ノコトヲ申シテ居リマス、
男子ノ方ニ付テハ將來代議士ニナル御方モ
アリマセウシ、色ニ關係モアリマセウカ
ラ、或ハ卒業前ニ一回位議院ノ傍聴ヲナサ
ルト云フコトモ宜イカモ知レヌト存ジマス
ガ、婦人ハ是ハドウ云フモノデアラカト云
フコトヲ疑フノデアリマス、此御尋ネハ婦
人ノ學生ニ付テ御答ヲ、若シ政府委員デ
出來マスルナラバ御答ヲ願ヒタイ

(政府委員東郷實君演壇ニ登ル)

○政府委員(東郷實君) 文部大臣ガ唯今御
話ノヤウニ樞密院ニ參ツテ居リマシテマダ參
リマセヌカラ……

(御出席デスヨト呼フ者アリ)

ソレデハ代リマス

(國務大臣鳩山一郎君演壇ニ登ル)

○國務大臣(鳩山一郎君) 御答ヘ申上ゲマ
シテ、文部省ニ於キマシテ學生ニ傍聴ヲ獎勵
シテ居ルヤウナ事實ハゴザイマセヌ、女學
生ノ傍聴者ガ多イノハ、最近卒業生ノ時ニ
議會ノ傍聴ヲ致シタイト云フ學校ノ要求ガ
段々ト強エテ參リマシテ、卒業前ニ一回ダ
ケ東京並ニ近縣ノ女學生ガ傍聴ニ參テ居
ル次第デアリマス、公民教育ノ必要ヲ御承
知ノ通デアリマシテ、必シ婦人參政權ノ
目的デ以テソレニ興味ヲ持テ來テ居ルモ
ノトハ私ハ考ヘテ居リマセヌ、唯公民教育
ノ必要カラ女子ト雖モ議會政治ノ一端ヲ知
リタイト云フ希望ハ當然持ツベキ希望ヲ知
ウニ考ヘテ居リマスノデ、默認シテ居ル次
第デアリマス

○阪本鈺之助君 御趣意ハ略ボ分リマシタ、
ソレニ同意スルセスト云フコトハ此處デ申
スコトデハアリマセヌガ、意見ハ違ヒマス
ケレドモ、止メテ置キマスガ、事ノ序ニ伺
テ置キマス、是ハ斯ウ云フ風ニ極テ行カ
レルト云フコトデアリマセヌガ、兎ニ角
刑務所ノ參觀ニ女生徒ガ行クト云フコトガ
新聞ナドニ見エマスルガ、是ナドハ如何ナ
モノデアリマセウカ、私ハドウモ刑務所ヲ
見セテ置クコト云フコトモ、社會教育ト云フ
コトカラ勸メル……唯今ノヤウナ社會教
育ノ一ツト言ヘバソレダケノコトデアリマ
スガ、何ノ爲ニ刑務所ヘ行クノデアリマス
カ、惡イ事ヲスルノデアリマセウカ、或ハ
フゾト云フデ見セルノデアリマセウカ、或ハ
微役デ勞働ナドヲシテ居ルノヲ見セルト云
フ意味デアアルカ、大學ノ學生ナドガ刑務
所ヘ行クト云フコトハ、何處ニ必要ガアル
ノカト云フコトヲ考ヘマス、議院ヲ之ニ比
スルト云フコトハ甚ダ不都合ナコトデアリ
マスガ、比スルノデハアリマセヌガ、稍
ソレノ延長デ、何デモ珍ラシイ所ハ行テ
見ル、是レ即チ社會教育ナリト云フヤウナ
文部省ノ意見ガ存在シテ居ルノデアリナ
イカ、問題ガ段々伸ビテ行キマス、何處ニ
行クカ分ラヌト云フコトヲ氣遣フノデアリ
マス、唯今申上ゲタコトニ付テ文相ノ御答
辯ヲ願ヒタイ

(國務大臣鳩山一郎君演壇ニ登ル)

○國務大臣(鳩山一郎君) 女學生ガ刑務所
ノ參觀ニ行クト云フ御話デゴザイマスカ
私ハ存ジマセヌガ、或ハ女學生デ刑務所ノ
參觀ニ行クノガアルカモ知レマセヌ、是モ
決シテ文部省デ獎勵シテ居ル事實ハゴザイ
マセヌ、男學生デ刑務所ノ參觀ハ、私モ學
生時分ニ總務陳重先生ガ、アア云フ所ヲ見
テ置ケト云フノデ見テ行クコトガアリマ
スケレドモ、別ニ惡イ影響ヲ感ジタヤウニ
考ヘマセヌ

(議長公爵德川家達君) 是ニテ國務大臣
ノ演説ニ對スル質疑ノ通告者ハ終了ヲ告ゲ
マシタ、本日ノ議事日程ハ是デ終了ヲ認メ
ラ、決定次第彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、
本日ハ是ニテ散會ヲ致シマス

午前十一時四十八分散會